大正ロマンあふれる壽丸屋敷とモダンアートがコラボ！

「竹林嘉子版画展～祈りを込めて～」　東日本復興支援 in 壽丸屋敷

7月４日～６日の３日間、「竹林嘉子版画展～祈りを込めて～」が壽丸屋敷で開催されました。この展示会は、青森県在住の版画家竹林嘉子さんが、東日本大震災の被災者を版画で元気づけたいという思いから実現し、白石市出身の詩人とコラボレーションした詩画など45点が展示。消しゴム版画などの制作ワークショップや版画のチャリティー即売会も行われました。竹林さんは「被災した人たちに心を寄せて、応援したいという思いで展示会を行いました。震災の時にお会いした女性をモデルにした作品などに『一緒に元気に生きていきたい』という思いを込めました。私の作品を見て、少しでも元気を取り戻してもらえらたうれしい」と笑顔で話してくれました。

また、７月５日には、版画展応援イベントとして講演会「郷土の詩人鈴木梅子と堀口大學」が行われ、約30人が参加。角田市在住の西田朋さんが講演しました。西田さんは鈴木梅子研究の第一人者で、現在も研究を続けています。この日は、新しく発見された資料にもふれながら説明。参加者は「梅子さんについての新しい情報を得ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました」と満足した表情で話していました。

1_モダンな作風が特徴の版画。壽丸屋敷の雰囲気と見事な調和を見せた　2_「さまざまな場所で展示会を行い版画の魅力を伝えながら、自分でも新たな魅力を発見していきたい」と話す竹林さん　3_版画と詩がコラボレーションした作品に訪問客は釘付け　4_版画制作ワークショップで、竹林さんの指導を熱心に受ける参加者たち　5_梅子さんの新情報などを熱く話す西田さん（中央）

鈴木梅子と堀口大學

鈴木梅子さん（1898～1973）

▲結婚式でお色直しをした梅子

明治31年、福島県信夫郡鳥川村（現福島市成川）大豪農「成友」の矢吹家の長女として誕生。大正３年に満16歳で白石の豪商「大味」鈴木家の長男俊一郎と結婚。古い家族制度に縛られた大家族の中で嫁として勤める。しかし、向学心を持つ梅子は「大商家の嫁として一生を終えるのでは我が身が不憫」と、少女時代から習っていた短歌を支えとし、勉学に努めた。

昭和３年に第一書房の長谷川巳之吉を介し、詩人堀口大學に弟子入りする。大學に師事した梅子は、昭和４年「パンテオン」に「月光」を発表して以降、さまざまな雑誌に詩を発表した。大學は、素養をもった梅子に並々ならぬ愛情を注いで詩の指導に当たっただけではなく、苦難な人生を歩むことを強いられた梅子のよき相談相手でもあった。梅子は通信による指導だけではなく、60歳ころまでは、年に一度ほどは大學が住む葉山まで出向き、直接指導を受けていた。やがて、大學の序詩を得て、昭和31年「殻」、昭和34年「をんな」、昭和41年「つづれさせ」の３冊の詩集を編む。

大學が梅子に贈った詩「こけし」は、昭和33年に大學が梅子を訪ね、小原温泉に宿泊した時に作られたものである。この詩は、昭和47年に大學と梅子の詩業を顕彰し、詩碑として白石市民会館（現いきいきプラザ）前庭に建立（現在はホワイトキューブ前庭に設置）。同年５月に行われた除幕式に出席出来なかった大學は、同年10月詩碑を見に来白し、小原温泉に一泊。翌日、あらためて梅子宅を訪問した。梅子は、翌年の昭和48年11月30日、75歳で永眠。墓は鈴木家の菩提寺・延命寺にある。

堀口大學さん（1892～1981）

▲小原温泉での堀口大学

東京生まれ。明治27年外交官の父九万一の朝鮮赴任のため、家族と新潟県長岡に移り、その地で育つ。明治42年長岡中学校卒業と同時に上京。この年与謝野鉄幹・晶子の新詩社に入る。慶応義塾大学文学部予科に入学するが、明治44年、父の任地メキシコに赴くため大学を中退。以後大正14年まで父とともに各国で暮らす。この間、父の手引きでフランス近代詩を読み次々と翻訳し日本に紹介。帰国直後に刊行した訳詩集「月下の一群」は日本近代詩に新風をもたらした。

（西田朋さん談）

ホタルの光で幻想的な夏の夜を過ごす

福岡・白川でホタルまつり

6月28日、白石薬師堂ホタルの里を守る会（半澤勇三郎会長）と白石温泉薬師の湯共催の「第12回ホタルまつり」が白石温泉薬師の湯で開催されました。薬師の湯で行われた開会式には市内外から約200人が参加。大鷹沢こども太鼓、弥治郎ダンサーズ、よさこい走乱白石城の皆さんによる力一杯の演舞などを楽しみました。来場者は、同地区のサロン・サンサンや福岡小学校の皆さんなどが製作した花灯路約180個で幻想的に照らされた道に沿って、通称「おがる石」まで歩いて移動。十数匹のゲンジボタルを鑑賞しました。この日はあいにくの雨にもかかわらず、多賀城市から訪れた方は「ホタルを見るのは初めてですが、ホタルの光ってなんとも言えませんね。とてもきれいで感動しました」と楽しそうに話してくれました。

また、７月５日、小奥地区の石神社周辺では白川小奥地域環境資源保全隊主催（佐藤勇二代表）の「第４回石神社ホタル鑑賞のつどい」が開催されました。この日は地区内外から約50人が参加。開会行事では、手話で遊んだり、ホタルについてのクイズや紙芝居「ホタルくんとカエルさん」でホタルについて学んだりした後、大森川の土手沿いまで歩いて移動し、舞い飛ぶたくさんのゲンジボタルを鑑賞しました。この光景を目の当たりにした同地区の子どもたちは大興奮！　楽しい夏の夜のひとときを過ごしていました。

1_福岡蔵本薬師堂地区「第12回ホタルまつり」
2_白川小奥地区「第４回石神社ホタル鑑賞のつどい」

体と体で真剣勝負！

第18回わんぱく相撲仙南場所・第２回なでしこ相撲

6月14日、「第18回わんぱく相撲仙南場所」「第２回なでしこ相撲大会」（公益社団法人白石青年会議所主催）が宮小学校（蔵王町）で開催されました。大会には仙台市以南の小学１～６年生の男女計95人が参加し、本市からは男子26人と女子12人が出場。男子５年生の部で優勝した日下陸くん（深谷小）は「昼休みに練習を重ねてきました。昨年負けた相手に勝てて、２年ぶりに優勝できたので良かったです。全国大会ではかっこいい試合をしたいです」と笑顔で話してくれました。全国大会は、８月３日、両国国技館（東京都）で開催されます。

大会結果（敬称略）

■男子個人戦　２年生の部：第２位佐藤悠也（深谷小）、３年生の部：第２位我妻蒼（大鷹沢小）、５年生の部：第１位日下陸（深谷小）、第２位松永旭叶（深谷小）、第３位佐々木洸（白石第一小）、第４位高見沢治希（白石第一小）、６年生の部：第３位佐久間隆誓（大鷹沢小）
※男子個人戦の４年生以上の優勝者は、東京・両国国技館で開催される全国大会への出場権を獲得しました。
■女子個人戦　３・４年生の部：第３位日下虹美（深谷小）、５・６年生の部：第２位志村美紅（深谷小）、第３位林美羽（深谷小）

1_白熱した一番を戦った日下くん（左）と新山銀哉くん（深谷小・右）　2_なでしこ相撲で、白石勢最高順位になった志村美紅さん（深谷小・左）　3_ちゃんこを振る舞う東関部屋の富士寿関